

大学が行う近隣住民を対象としたサマースクールの効果検証

○玉井久実代 横山誠 [大阪国際大学]

相奈良律 [公益財団法人大阪府レクリエーション協会]

キーワード：サマースクール効果検証、地域貢献、児童用コンピテンス

1. 緒言

子どもの遊びと社会性との関連において、子どもは他人との関わりや共同経験を通じて社会性を身につけていくこと（三木, 2002）や、遊びを通して人間形成をする存在であること（村瀬, 2007）などが報告されている。しかし、現代では外遊びから中遊びへと「遊び」が変化し、子どもの直接的なコミュニケーション能力や人間関係能力が低下してきている（堺ら, 2007）。

こうした背景の中で、大阪国際大学では近隣の小学生を対象としたサマースクール（以下、サマースクールとする）を実施している。サマースクールとは大学主催の地域貢献イベントで、学生が主体的に運営を行っている。これまでの活動内容は、学内の運動施設や教室を利用したレクリエーション活動が主で、スポーツ活動、夏休みの宿題の指導、クラフトの他、学外のキャンプ場を利用して野外料理を行うなど多様なプログラムを展開している。

サマースクールの効果は、H23年度、H24年度に実施されたサマースクールにおいて児童用コンピテンス測定尺度を用いて分析し、参加者に効果があることなどが報告されている（横山ら, 2013）。

2. 目的

本研究の目的は、H25年度に実施されたサマースクールの効果を参加者と保護者の視点から明らかにすることである。

3. 方法

サマースクールの効果を明らかにするために、児童用コンピテンス測定尺度「学習、社会、運動、自己価値」4因子40項目（桜井, 1997）を用いた。アンケートはサマースクールの参加者とその保護者に行い、事前・事後に参加者のコンピテンス（以下、参加者コンピテンスとする）と保護者からみた子ども（参加者）のコンピテンス（以下、保護者視点コンピテンスとする）を測定した。有効回答標本数（親子（参加者・保護者））は、35で回収率は80.4%であった。

4. 結果

(1) サマースクールの概要

表1にサマースクールの概要を示す。

表1 サマースクールの概要

アンケート対象者	小学生1~6年生50名 / 保護者37名
日程	平成25年8月12~14日（日帰り3日間）
場所	1日目・2日目：大阪国際大学枚方キャンパス / 3日目：枚方市野外活動センター
プログラム内容	スポーツ、夏休みの宿題、工作、野外料理
グループ形態	1~2年生、3~4年生、5~6年生の6グループに大学生のスタッフが1~2名ずつ配置
参加費	5,000円

(2) 参加者および保護者からみた参加者のコンピテンス得点の変化

図1にサマースクールのコンピテンス得点を示す。

参加者コンピテンスと保護者視点コンピテンスについては、学習、社会、運動、自己価値コンピテンスの4因子とその総計を得点化し、サマースクール前後でt検定を行い比較した。

参加者コンピテンスの学習、社会、自己価値の得点は向上し、運動に関する得点は低下した。保護者視点コンピテンスの社会、運動、自己価値の得点が向上し、学習に関する得点が低下した。参加者コンピテンス、保護者視点コンピテンスいずれの変化においても、全てのコンピテンスで有意な差は認められなかった。社会・自己価値コンピテンス得点は、参加者コンピテンス得点、保護者視点コンピテンス得点いずれの変化からみても向上し、学習・運動コンピテンス得点は参加者コンピテンス得点と保護者視点コンピテンス得点では異なる得点変化となった。

コンピテンスの総計に関しても、参加者コンピテンス、保護者視点コンピテンスいずれの変化においても、サマースクールの前後で有意な差は認められなかった。しかし、コンピテンス総計得点をみると参加者コンピテンス得点では向上したのに対し、保護者視点コンピテンス得点は低下した。

参加者のコンピテンスは、参加者自身が回答したコンピテンスと保護者からみた参加者のコンピテンスが異なる変化であることから、サマースクールの参加者への効果は参加者視点と保護者視点では異なることが明らかになった。

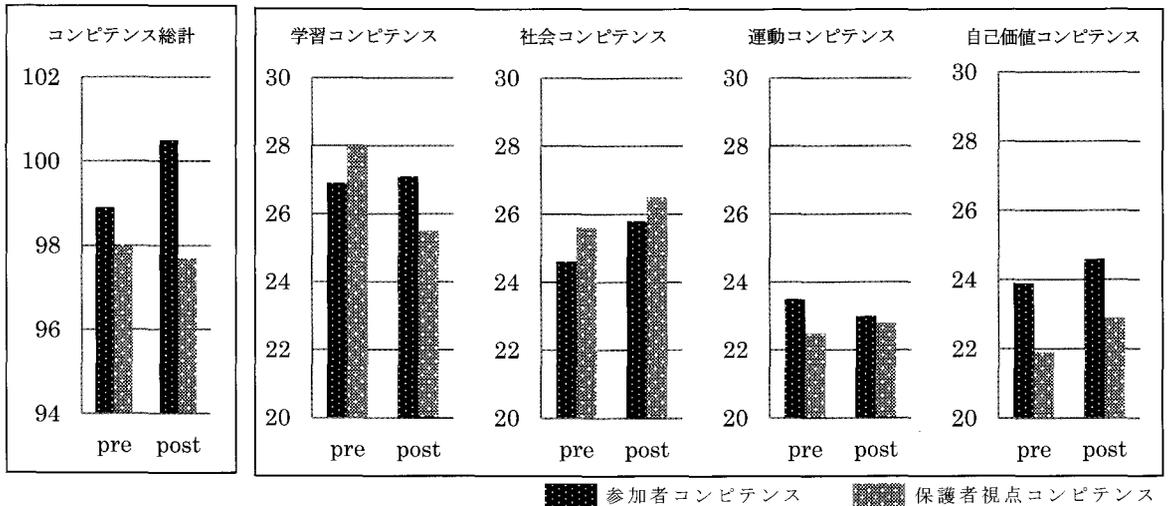


図1 参加者コンピテンス得点と保護者視点コンピテンス得点

5. まとめ

今回のサマースクールの効果検証では、サマースクールの内容に関して参加者が気づきを得られるような工夫や、保護者にも活動イメージや効果を分かりやすく伝え、期待に応えられるよう検討を繰り返すことが不可欠であることが明らかになった。ゆえに、今後のサマースクールは、より効果が得られるようなプログラム全体の改善を試みる必要がある。また、サマースクールの学生事前指導も見直し、地域活性化や地域との関連強化、本学学生の実践教育の場としてのサマースクールの意義を考えることが検討課題である。